

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 特許出願公開

⑪ 公開特許公報 (A)

昭63-53857

⑫ Int.CI.<sup>4</sup>  
H 01 M 8/02

識別記号

庁内整理番号

R-7623-5H  
B-7623-5H

⑬ 公開 昭和63年(1988)3月8日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全4頁)

⑭ 発明の名称 燃料電池のセパレータ

⑮ 特願 昭61-196623

⑯ 出願 昭61(1986)8月22日

⑰ 発明者 田中潤 東京都千代田区丸の内1丁目6番2号 石川島播磨重工業  
株式会社本社別館内

⑱ 出願人 石川島播磨重工業株式会社 東京都千代田区大手町2丁目2番1号

⑲ 代理人 弁理士 坂本徹 外1名

明細書

1. 発明の名称

燃料電池のセパレータ

2. 特許請求の範囲

電解質を挟む一対の正極および負極とで構成される単電池を積層する場合の各単電池間に介装され、隣接する一方の単電池の正極側流路を形成するとともに他方の単電池の負極側流路を形成する燃料電池のセパレータにおいて、前記単電池より大きい仕切板を挟んで一対の波形板を配置するとともに、これら波形板の外側に電極の取付孔が形成されたマスク板を配置し、これら仕切板およびマスク板の周縁部を溶接で密閉したことを特徴とする燃料電池のセパレータ。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

この発明は燃料電池の単電池を積層する場合に

使用するセパレータの改良に因し、均一な結合付けと製作の容易化を企図したものである。

(従来の技術)

気体燃料の持つ化学エネルギーを直接、連續的に電気エネルギーに変換できる燃料電池は従来の発電方法に比べ高い総合効率が得られることが知られている。

このような燃料電池には、電解質により種々のものがあるが、例えは熔融炭酸塩型燃料電池では、アルミニウムリチウム (LiAlO<sub>2</sub>) 粒子層中に炭酸塩を含混させた電解質を2枚の多孔質電極 (Ni, NiO) で挟んで単電池とし、負極 (アノード: Ni) に燃料ガスを供給すると同時に正極 (カソード: NiO) に酸化剤ガスを供給して電力を取り出すようにしている。

ところが、この燃料電池で得られる起電力は1ボルト前後であることから単電池を多数並列に積層して集合電池 (スタック) として使用するのが一般であり、各単電池の間には、セパレータが介装され、一方の単電池の燃料ガス流路と他方の単

電池の酸化剤ガス流路を区分するようになっている。

そして、集合電池とする場合には、ガスのリークを防止すると同時に、電解質板と電極とを均一に接触させることができ向上をはかる上で重要である。

このため従来、第3図に示すように、セパレータ1として波形板1aの周縁部に金属枠1bを取付けたものが使用されたり、あるいは第4図に示すように、セパレータ2として溝2aを形成した金属板が使用されており、ガスのシールのためいずれのセパレータ1、2も単電池3の各電極4、5より電解質板6を大きくし、セパレータ1、2の縁で挟むウェットシールが採用されている。

(発明が解決しようとする問題点)

ところが、波形板1aと金属枠1bからなるセパレータ1では、金属枠1b部分が剛構造であるのに対し、電極4、5と接する波形板1aは柔構造であり、上下から均一に締め付けたとしても面圧のかかり方が不均一となり、電極4、5と電解

切板を挟んで一対の波形板を配置するとともに、これら波形板の外側に電極の取付孔が形成されたマスク板を配置し、これら仕切板およびマスク板の周縁部を溶接で密閉したことを特徴とするものである。

(作用)

燃料電池のセパレータを仕切板の両側に波形板およびマスク板を配置して周縁部を溶接で密閉する柔構造とすることで、電解質と接するウェットシール部も電極と接する部分と同一の柔構造とし、熱応力やひずみ等を吸収しながら面圧を均一にするようにしている。

(実施例)

以下この発明の一実施例を図面に基づき詳細に説明する。

第1図および第2図はこの発明の燃料電池のセパレータの一実施例にかかり、第1図は斜視図、第2図は横断状態の断面図である。

燃料電池のセパレータ10は、平板状の仕切板11を挟む両側に波形に成形された波形板12が

質板6との接触が悪くなってしまう可能性がある。

また、全体が金属板で構成されたセパレータ2では、全体が剛構造であるため、常温状態で均一な締付けが可能であっても高温になるとひずみが生じることもあり、均一に締め付けることが難しい。そして、製作する場合には、厚い方向に高精度な加工が要求され、大型のセパレータを作ることは、難しく、しかも高価になってしまう。

この発明はかかる従来技術の問題点に鑑みてなされたもので、全体を柔構造として、熱応力やひずみが生じても均一な面圧が確保でき、しかも製作も容易な燃料電池のセパレータを提供しようとするものである。

(問題点を解決するための手段)

上記問題点を解決するためこの発明は、電解質を挟む一対の正極および負極とで構成される単電池を積層する場合の各単電池間に介装され、隣接する一方の単電池の正極側流路を形成するとともに他方の単電池の負極側流路を形成する燃料電池のセパレータにおいて、前記単電池より大きい仕

配置され、これら波形板12の外側に、単電池3の各電極4、5に対応した大きさの電極取付孔13aが形成されたマスク板13が配置されており、各マスク板13の周縁部13bが仕切り板11と重ね合わされるよう曲げられ、仕切板11と2枚のマスク板13の周縁部13bがシーム溶接で密閉されている。

このセパレータ10の仕切板11は、燃料電池を構成する単電池3の大きさより大きい、厚さ1mm程度以下のステンレス板で作られており、周縁部11aが単電池3の電解質板6の外側に位置するようになっている。そして、この仕切板11で燃料電池の単電池3をセパレータ10を介して積層して集合電池とした場合の隣接する単電池の正極側流路14と負極側流路15を仕切っている。

この仕切板11の両側に配置される波形板12は、厚さ1mm程度以下のステンレス板等をプレス成形して作られており、波形の高さは、必要に応じ正極側流路14と負極側流路15に配置されるもので変えられ、酸化剤ガスや燃料ガスの流路断

面積を変ることもある。

この波形板12の外側に配置されるマスク板13は、単電極3の電極4、5の厚さと同一厚さのステンレス板で作られており、中央部の電極取付孔13aには、電極4、5の端面が密着状態で取付けられるようになっている。

そして、これら仕切板11の周縁部11aと両側のマスク板13の周縁部13bとが重ね合わされて密接で密閉するが、密接法としては上述のシーム溶接法を使用したり、電子ビーム溶接法やレーザ溶接法を使用する。

このようなセバレータ10を用いて単電池3を積層して集合電池（スタック）とすると、第2図に示すように、マスク板13の取付孔13aに電極4（または5）が密着状態で装着され、電極4、5上に波形板12が直接接触すると同時に、ウェットシールとなる電解質板6の周縁部にマスク板13が接触する状態となっている。

こうして多段段単電池3を積層して図示しない糊付装置で糊め付けると、セバレータ10が電極

したがって、従来の剛構造と柔構造を組合せたセバレータや剛構造だけのセバレータに比べ、常に、均一に糊め付けることができ、燃料電池の性能を良好に保つことができる。

また、セバレータの周縁部を重ね合せて密接で密閉するようにしたので、従来の波形板を金属枠とろう付けするセバレータに比べ、大幅なコスト低減をはかることができ、1/3～1/5程度安価になる。

#### 4. 図面の簡単な説明

第1図および第2図はこの発明の燃料電池のセバレータの一実施例にかかり、第1図は斜視図、第2図は積層状態の断面図、第3図および第4図はそれぞれ従来のセバレータの断面図である。

3…単電池、4、5…電極、6…電解質板、10…セバレータ、11…仕切板、12…波形板、13…マスク板、14…正極側流路、15…負極側流路。

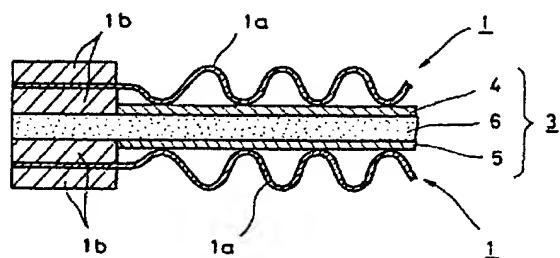
4、5と接触する部分および電解質板6と接触する部分がほぼ同一の剛性の柔構造であることから均一な面圧で糊め付けることができるとともに、燃料電池の運転により高温と常温が繰り返されて、熱応力やひずみ等が生じてもこれらを波形板12等の柔構造により吸収しながら均一な糊付状態が確保される。

なお、上記実施例では、正極側流路と負極側流路とを同一方向とし、燃料ガスと酸化剤ガスとを平行流あるいは対向流とする場合で説明したが、直角方向として直交流としても良い。

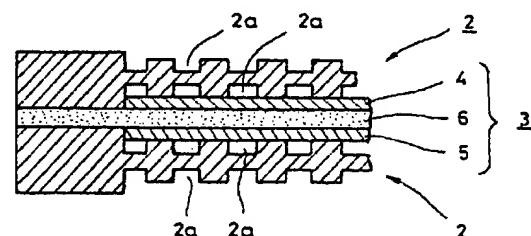
#### （発明の効果）

以上一実施例とともに具体的に説明したようにこの発明の燃料電池のセバレータによれば、仕切板の両側に波形板およびマスク板を配置して周縁部を密接で密閉するようにしたので、電解質板と接するウェットシール部も電極と接する部分と同一の柔構造となり、糊付力が均一となるとともに、熱応力やひずみ等が生じてもこれらを吸収しながら面圧を均一にすることができる。

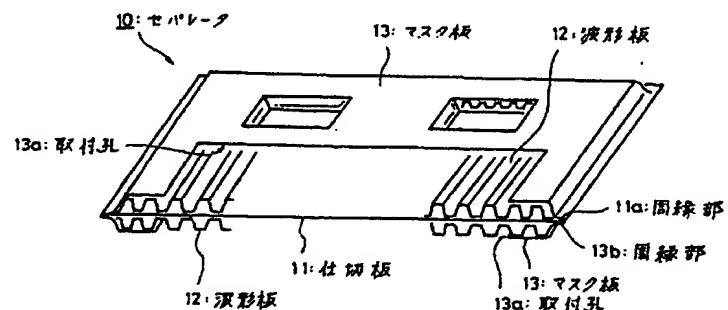
第3図



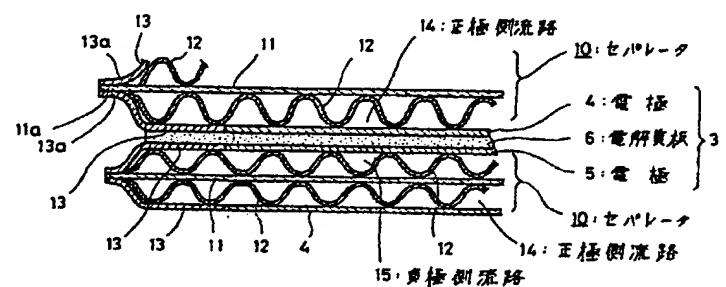
第4図



第 1 図



第 2 図



(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: 10189021 A

(43) Date of publication of application: 21 . 07 . 98

(51) Int. Cl

H01M 8/06

C01B 3/32

H01M 8/04

(21) Application number: 08345427

(71) Applicant: TOKYO GAS CO LTD

(22) Date of filing: 25 . 12 . 96

(72) Inventor: ADACHI HARUHIKO  
OMURA TOSHIYA  
OTSUKA SHINJI

(54) PHOSPHORIC ACID FUEL CELL DEVICE

modifying part 13.

(57) Abstract:

COPYRIGHT: (C)1998,JPO

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a phosphoric acid fuel cell device in which a dead space between apparatuses is eliminated to make a whole package compact by structuring a desulfurizer, a modifying unit and a CO transformer a plate form and placing a modifying unit so that it is held between other apparatuses.

SOLUTION: A desulfurizer 11, a modifying unit 12 and a CO transformer 17 are structured in a plate form on the same plane. The desulfurizer 11, the modifying unit 12 and the CO transformer 17 are laminated in this order from the bottom. A lower modifying part 13 and an upper catalyzer burning part 14 are partitioned in the modifying unit 12, and modifying catalyzer 15 and burning catalyzer 16 are filled in them respectively. A lower CO transformer cooling side 18 and an upper CO transformer modifying side 19 are partitioned in the CO transformer 17. An alumina ball 21 is filled in the upstream side of the CO transformer modifying side 18 and an alumina ball 20 is filled in the lower stream side of the CO transformer cooling side 18. The alumina ball 21 suppresses its temperature at a low level by means of heat exchange with reacting gas from the

